

平成25年度一般職長期在外研究員報告書簡（第7回）

氏 名 横 田 朋 子	所属庁・官職 東京高等裁判所 裁判所事務官	派遣先 フランス共和国 ディジョン
提 出 書 面 平成26年4月13日付け報告書簡		
報告期間中の日程の概略（平成26年3月4日～同年4月6日） 同年3月4日～ 国立書記官学校にて学科研修受講 同年3月31日～ パリSARにて実務研修受講		
キーワード欄 ・ 国立書記官学校での主任書記官学科研修 ・ 宣誓式 ・ パリSARでの実務研修		

平成26年4月13日

最高裁判所事務総局秘書課長 殿

平成25年度一般職長期在外研究員（フランス）

東京高等裁判所

裁判所事務官 横 田 朋 子

第7回報告書簡

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

以下のとおり、報告期間中に受講した学科研修の内容を御報告いたします。

1 学科研修について

(1) 学科について

学科研修も終盤となり、主に大教室で行われる講義形式の授業が多かったのですが、グループ別で行われた面談及び会議の技法について（Conduite d'entretien et Technique de réunion）の演習が大変興味深かったです。

主に人事評価の際に行われる面談について、演習及びポイント解説がありました。2人1組で主任書記官役と書記官役につきそれぞれ発表を行うのですが、書記官役には主任書記官役に隠して役柄の特徴（繊細、本題と異なる話ばかりする、反抗的、やる気がない等）が事前に渡され、その役柄を演じるというものでした。書記官役を演じる研修生の演技はどれもアドリブとは思えないほど秀逸でしたし、主任書記官役に対しての手加減がなく、かなり実践的だと感じました。

このほか、裁判官の身分規定、監査、メンタルヘルス、各組合団体との意見交換等の授業があり、最終日には1日かけて試験が行われました。

(2) 宣誓式（prestation de serment）

学科研修期間中に宣誓式が行われました。重要な儀式であり、研修生にとっては最初に法服を着用する機会でもあるため、当日は厳粛かつ華やかな雰囲気にも包まれていました。研修生は各自最大2名まで近親者等を招待することがで

きます。当日は、校長の挨拶に続き、ディジョン大審裁判所の裁判官3名、検察官1名、書記局長を前に、一人一人、氏名を呼ばれた後に、右手を挙げて「Je le jure. (誓います。)」と言って宣誓していました。フランスにおいては、実務研修中は研修生も法服を着て法廷に立ち会うため、実務研修前にこの儀式を経る必要があります。式の終了後は、研修生同士やグループ単位等で記念撮影を行いました。なお、私は宣誓する権利を有しませんが、研修所の職員席に座って、儀式の一部始終を見学させていただくことができ、記念撮影にも参加させていただきました。

(3) その他

学科研修中は、語学の面においてもフランスの司法制度、職員制度という面においても、研修について行くことは大変でしたが、周りの研修生の支えにより無事学科研修を終えることができました。同じグループの研修生を始めとする研修同期生には大変感謝しております。

なお、現在も研修において配属が同じになるなど接点も多いですし、今後も引き続き交流を続けていきたいと思います。

3 パリ地域行政部（SAR）での実務研修

(1) パリ SAR について

パリ SAR は裁判所庁舎（Plais de justice）の中にはなく、部署によってパリ市内7か所に分散され、合計190名の職員が配置されています。

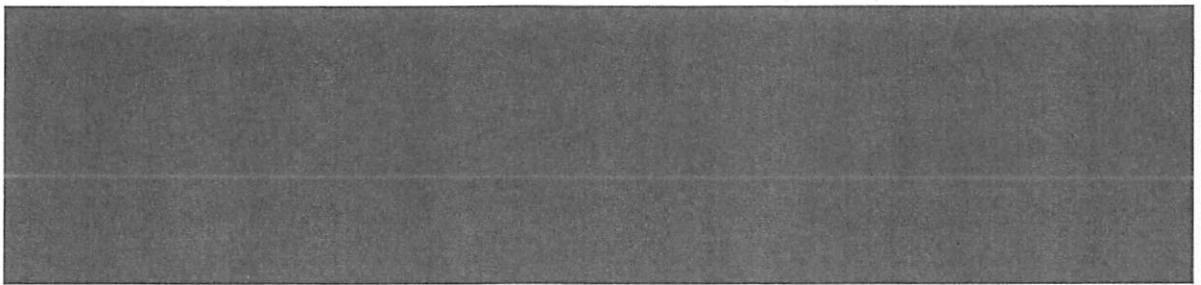
なお、今回、当初は司法省司法機関局（DSJ）及びパリ SAR において各2週間の実務研修受講との予定を組んでいたのですが、直前になってDSJでの受入れが困難となり（半日のみの受入れ）、パリ SAR で4週間研修を受講することとなりました。

(2) 予算研修について

当初、パリ SAR では人事担当部署でのみ研修を受講予定でしたが、研修期間が4週間になったことに伴い、予算担当部署においても研修を受講することと

なりました。最初に、国の予算編成スケジュールを大まかに説明していただいた後、現在進行中の案件に関してお手伝いさせていただきました。1つ目は、予算担当部署がホームページを立ち上げるため、他の SAR がどのような記事を掲載しているのか、また経済財務省(Ministère de l'Economie de des Finances) のホームページにリンクできるようなものがあるか調査すること、2つめは、予算に関して1月からの使用状況について費目別の表を作成し分析することとのことで、実際の仕事の一部を経験することができ、勉強になりました。

(3) その他



以上をもちまして、第7回報告書簡を終わらせていただきます。

敬具

平成25年度一般職長期在外研究員報告書簡（第8回）

氏 名 横 田 朋 子	所属庁・官職 東京高等裁判所 裁判所事務官	派遣先 フランス共和国 ディジョン
提 出 書 面 平成26年5月12日付け報告書簡		
報告期間中の日程の概略（平成26年4月7日～同年5月4日） 同年4月7日～ パリSARにて実務研修受講 （同年4月17日 司法省司法機関局（DSJ）にて研修受講）		
キーワード欄 ・ パリSARでの実務研修 ・ DSJでの研修		

平成26年5月12日

最高裁判所事務総局秘書課長 殿

平成25年度一般職長期在外研究員（フランス）

東京高等裁判所

裁判所事務官 横 田 朋 子

第8回報告書簡

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

1 パリ地域行政部（SAR）での実務研修について

パリ SAR の人事担当部署における実務研修について御報告いたします。

パリ SAR の人事担当部署は任用・勤務時間管理、給与及び採用・研修の3つのセクションに分かれているところ、私はこのうち任用等担当のセクションで研修を受講いたしました。全てのセクションで研修することを希望していましたが、残念ながら受入れは難しかったようです。

当該セクションの [REDACTED] 氏には定員・充員関係に特に興味があることを伝えたため、これに関する資料を貸与していただいたり、欠員時等の人的応援の方策について実際に職員の方の仕事を見せていただき、記録を読んだり、説明を受けることができました。フランスでは欠員問題は深刻であり、現在の制度で対応しきれているとは言いがたいところがありましたが、日本とは異なる制度があることは大変興味深かったです。

また、研修中は、予算担当部署における研修の際と同様、次のように実際の仕事の一部を経験させていただきました。

フランスにおいては、異動は司法省司法機関局（DSJ）から空きポストのリストが送付され、これを職員に周知して職員本人が希望を提出し、当該庁の意見が付されたうえで、当局と組合の各代表者で構成される管理委員会（CAP, Commission administrative paritaire）において判断されるという手続になります。私が研修していた時期はちょうど主任書記官クラスのリストに基づいて、各庁から異動希望書が

SAR に送付されてくる時期でしたので、この異動希望書に関して DSJ へ提出するための希望者リストを作成いたしました。リスト作成の前提として、通達等を確認し異動の具体的な手続の流れを知ることができて大変勉強になりました。

また、フランスには消化できなかった年次休暇等の貯蓄制度 (CET, compte epagne-temps) があり、貯蓄された休暇を休暇として使用するほか、一定の条件の下、金銭補償等により使用することもできるところ、この口座にある休暇の使用状況及び残日数の確認処理を行いました。当該作業についても、確認処理を行うためには CET 制度の正確な理解が不可欠であるため、学科研修の際の資料の見直しや不明な点は職員の方に教えていただくなどして誤りがないよう 1 件 1 件確認していききました。学科研修で学んだ理論について実践して理解を深めることができ、有意義だったと思います。

このほかにも、新たな通達改正に関して新旧対照表の作成等を行いました。

今後、ディジョンの地域行政部でも研修を受講する予定ですが、フランス最大規模のパリ SAR で研修できたことは大変勉強になりましたし、何人かの方とは連絡先も交換させていただいたので、交流を続けていきたいと考えています。

2 司法省司法機関局 (DSJ) での研修について

前回報告書でも触れましたが、当初 2 週間の研修の予定が半日に変更となり、大幅に短縮されてしまったことは大変残念でしたが、それぞれの部署のトップの方からお話を直接うかがうことができ、興味深かったです。

各部署の紹介の予定でしたが、私の方で質問事項を準備していったところ、質問に答えていただく形で研修を進めていただくことができました。異動のシステム、定員設定、女性登用等について意見交換することができ、半日ではありましたが充実した時間を過ごすことができました。

3 その他

フランスでは「21 世紀の司法」と題して司法改革の検討が進められている真っ只中であり、裁判官や書記職の職務についても見直しを含めた検討がされてい

ます。ただ、これらの内容について、組合団体を含め書記職は不満を抱いており、私のパリ滞在中である4月10日お昼休みには裁判所前で職員が法服を着用して示威行動を行っていました。この日はフランス各地の裁判所で同様のアクションがなされたようです。また、4月29日には、職員が法服を着用して街頭を行進するストライキも行われていました。

さらに、4月26日は書記官学校創立40周年の祝賀式典が書記官学校において催される予定で、私も出席予定でしたが、このような情勢を受けて司法省の意向により中止（延期）となっています。

いずれも日本では遭遇しない出来事ですので大変驚きましたし、今後も推移を見守っていきたいと思います。

以上をもちまして、第8回報告書簡を終わらせていただきます。

敬具

平成25年度一般職長期在外研究員報告書簡（第9回）

氏 名 横 田 朋 子	所属庁・官職 東京高等裁判所 裁判所事務官	派遣先 フランス共和国 ディジョン
提 出 書 面 平成26年6月12日付け報告書簡		
報告期間中の日程の概略（平成26年5月5日～同年6月1日） 同年5月5日～ ディジョン地域行政部にて実務研修受講 同年5月14日 欧州司法裁判所訪問 同年5月19日～ 国立書記官学校にて実務研修受講 同年5月26日～ ブザンソン大審裁判所にて実務研修受講		
キーワード欄 ・ ディジョン地域行政部での実務研修 ・ 欧州司法裁判所訪問 ・ 国立書記官学校人事担当部署での実務研修 ・ ブザンソン大審裁判所での実務研修		

平成26年6月12日

最高裁判所事務総局秘書課長 殿

平成25年度一般職長期在外研究員（フランス）

東京高等裁判所

裁判所事務官 横 田 朋 子

第9回報告書簡

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

以下のとおり、報告期間中に受講した研修の内容を御報告いたします。

1 ディジョン地域行政部での実務研修

ディジョン地域行政部においては、1週間で人事、予算、公契約、情報システム、庁舎管理等ひととおりの部署で研修させていただくことができました。各部署での研修は短期間であったものの、地域行政部の業務を人事以外についても概括的に把握できたこと、またパリとは規模の違いから業務分担や業務遂行の仕方が異なりこれらを比較することができたことなど得るものは大きかったと思います。

2 欧州司法裁判所見学

既に別途連名の報告書を提出しているとおおり、5月14日欧州司法裁判所を見学いたしました。EU関係の裁判所訪問は初めてでしたが、職員の方はみなマルチリンガルであることや通訳ブースの数の多さ等国際機関であることを強く印象づけられました。また、フランス以外に留学中の判事補とは初めてお会いする機会となり、各国書記官の状況等のお話を伺うこともできて大変貴重な機会となりました。企画してくださった倉重判事補には大変感謝しております。

3 国立書記官学校人事担当部署での実務研修

5月19日から1週間、国立書記官学校の人事担当部署において実務研修を受けました。同部署では、昨年9月末から1週間研修を受講しましたが、[REDACTED]から、これまでいくつかの人事担当部署で研修したことを踏まえ

て、もう一度研修をしてみてもどうかと御提案いただいたものです。

書記官学校の人事課は本年4月1日付けで部署の再編を行い、これまでの定員、勤務時間、休暇、人事記録等の管理業務に加え、人件費予算管理及び給与支給も担当することになり、職員数も主任書記官1名、書記官等3名、事務官6名の計10名に増員されています。

今回は、前回は見ることのなかった人件費予算管理及び給与支給を中心に研修を受講すると同時に、他部署からの事務の引き継ぎ、部署拡大に伴う職務分配の変更等に関しても折に触れて議論させていただきました。

4 ブザンソン大審裁判所での実務研修

ブザンソン大審裁判所では、刑事事件受付、予審、JAP（刑罰適用判事）等刑事事件手続を中心に研修いたしました。

JAPの研修時はブザンソン刑務所を訪れることができました。フランスにおいては、一定の条件の下、受刑者は刑期が残り2年（再犯者の場合は1年）以下になると、施設外処遇への切替え等刑の修正を求めることができるところ、この受刑者の審問手続に同行させていただいたものです。裁判官、書記官の外、検察官、刑務所事務局長立会いの下（弁護士は任意）、受刑者の審問を行い、裁判官が後日判断を示すこととなります。日本にはない制度であることやフランスの刑務所訪問は初めてであること等大変貴重な経験をさせていただいたと思います。

6月2日からは以前も研修させていただいたディジョン大審裁判所において再び実務研修を受講しております。この研修の様子については、次回重罪院における実務研修と合わせて報告させていただきます。

以上をもちまして、第9回報告書簡を終わらせていただきます。

敬具

平成25年度一般職長期在外研究員報告書簡（第10回）

氏 名 横 田 朋 子	所属庁・官職 東京高等裁判所 裁判所事務官	派遣先 フランス共和国 ディジョン
提 出 書 面 平成26年7月15日付け報告書簡		
報告期間中の日程の概略（平成26年6月2日～同年7月15日） 同年6月2日～ ディジョン大審裁判所にて実務研修受講 同年6月16日～ コート・ドール重罪院にて実務研修受講 同年6月30日～ ディジョン大審裁判所にて実務研修受講 （同年7月4日 国立書記官学校記念式典に出席）		
キーワード欄 ・ ディジョン大審裁判所での実務研修 ・ コート・ドール重罪院での実務研修 ・ 国立書記官学校記念式典への出席		

平成26年7月15日

最高裁判所事務総局秘書課長 殿

平成25年度一般職長期在外研究員（フランス）

東京高等裁判所

裁判所事務官 横 田 朋 子

第10回報告書簡

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

以下のとおり、報告期間中に受講した研修の内容を御報告いたします。

1 デイジョン大審裁判所での実務研修

デイジョン大審裁判所では以前も研修させていただきましたが、今回は主任書記官業務、合同庁舎の総合案内業務、JAF（家事事件裁判官）を中心に、通常民事事件手続、未成年後見手続、軽罪裁判所の研修も受講いたしました。

主任書記官業務については、デイジョン大審裁判所の主任書記官5名のうち、2名に付いてそれぞれの業務の説明を受けたり、打合せに同席させていただくことができ、主任書記官業務の幅の広さを改めて実感しました。また、総合案内は、学科研修の際に業務の内容や案内方法等の指針作成及び指導に力を入れていると感じたため今回当該業務の研修を希望したのですが、人手が不足しているせいか、なかなか指針通りの対応をしているとは言いがたい状況であると感じました。

2 コート・ドール重罪院での実務研修

6月16日（月）から2週間、デイジョン控訴院内に所在するコート・ドール（Côte d'Or）重罪院で法廷傍聴を中心にした実務研修を受講いたしました。

コート・ドール重罪院は1年に7、8回程度設置され、1回の開廷期間は2週間程度とされているようです。今回はこの2週間の間に4件の事件審理が予定されていましたが、後述する弁護士のストライキにより実際の審理は3件となりました。3件の中身は、それぞれ殺人、強盗及び強盗致死事件でした。フランスでは、被告人及び被害者の心理学鑑定や精神医学鑑定を行うことがほとんどで、こ

うした鑑定人を含む人証の取調べが1日に10人以上に及ぶことも少なくないため、閉廷時間は午後8時を回ることも多く、午前0時近くになる日もありました。傍聴した事件については起訴状に相当する書面、調書、判決等を閲読する機会もいただき、過去の報告書簡等で得ていた知識を現実の手続を通して研修することができ、充実した時間を過ごすことができました。

3 弁護士ストライキについて

ディジョン軽罪裁判所で研修中の1日、コート・ドール重罪院で研修中の1日は弁護士のストライキにより、弁護士が関与する事件期日は全て延期されました。特に重罪院においては、参審員が出頭していること、既に10人を超える証人召喚手続がなされており国の負担する費用は多額に及ぶこと、また被告人の身柄が拘束中であり、延期する場合には延期後の期日まで勾留期間の延長申請がなされている等の事情がありましたが、それでもストライキを理由とする期日の延期が認められており、驚かされました。

なお、重罪院開廷期間中に書記官のストライキ期日もありましたが、担当書記官は重罪院開廷期間であることを考慮し参加を見合わせたようです。

4 国立書記官学校記念式典への出席

7月4日、延期となっていた書記官学校40周年記念式典が行われました。クリスチャーヌ・トビラ（Christiane Taubira）司法大臣が書記官学校に招かれスピーチをされた外、研修生作成の書記官学校40年の歴史を振り返る映像が流されたり、研修生が中心となったコーラス隊が40周年を祝う歌を披露する等、現在在籍する研修生の特色が反映された素敵な式典だったと思います。

5 その他

現在は帰国に向けて資料整理を始めており、7月17日から帰国まではパリの破棄院及び重罪院等で裁判を傍聴する外、司法省で毎月開催される各部門の長が集まる会議にも出席させていただく予定です。

1年を振り返ると、生活面、研修面共に苦勞することも少なくありませんでした。

たが、秘書課渉外第二係の皆様、■■■■氏を初めとするENGの職員の方々、研修同期生等、周囲の様々な方のバックアップやご配慮をいただいたお陰で、充実した研修生活を送ることができました。心より御礼申し上げます。1年間という限られた期間でしたが、研究テーマであった人事制度を中心に、多くの方からお話を伺い、意見交換する機会に恵まれ、大変貴重な経験をさせていただいたと思っております。本当にありがとうございました。

以上をもちまして、第10回報告書簡を終わらせていただきます。

敬具